

思いは今 風に乗って

阿蘇外輪のすそ野に広がる「吉無田高原」。
360度の大自然が織りなす景観美は九州でも指折りといわれる。
吉無田水源をはじめ、「緑の村」草スキー場やキャンプ場には
年間多くの行楽客が、都会には無い癒やしを求めて訪れている。
そんな憩いのひとときを与える「吉無田高原」に今
新たな時代の風が吹きはじめています。
今月号では、「吉無田高原」の壮大な大地に思いをほせ
その魅力と価値、そして可能性を考えてみたい。

Top News



- ㊤/伝統芸能フェスティバルで光永平蔵役を熱演
(平成20年11月24日)
- ㊦/九州横断自動車道延岡線の鶴山谷トンネル貫通式
(平成23年2月25日)
- ㊧/消防団通常点検で団員の規律を点検者で確認
(平成23年4月3日)

町長の補佐に徹した4年間 危機管理を唱えた安全安心

木村元二副町長が退任



「4年間、一日一日の時間があつという間で、とにかく充実していました」
自らの役目をやり遂げ表情を緩めて振り返るのは、元副町長の木村元二さん。
9月20日付けで、副町長の任期が満了し、退任となりました。木村さんは昭和42年、少年自衛隊に入校。国民を守る職務と使命感に燃え、厳しい訓練を積み重ねて、西部方面の総監部総監付副官や航空隊本部幕僚などを歴任後、平成18年2月に退官しました。自衛隊での経験と知識、危機管理能力を求められて、平成19年9月、御船町副町長に就任しました。

「御船には、自然や水などのめぐまれた風土があります。そして宮部鼎蔵先生といった先哲、石橋や井出など誇れる史跡がありますので、観光面に結びつけていく必要もあると思います。私は4年間で培った知識を、何かの形で、御船町のために貢献できればと考えています」
郷土を思う気持ちは色あせることなく、その輝きは増し続ける木村さん。今、新たなスタートラインに立ち、町の頼もしい応援者として、これからも全力で走り続けていきます。

●Profile
きむら・もとかず。昭和26年生まれ。昭和42年3月、少年自衛隊入校。平成8年7月、PKO UNDOF 隊勤務。平成9年7月、西部方面総監部総監付副官。平成14年3月、西部方面航空隊本部幕僚。平成18年2月、自衛隊退官。平成19年9月、御船町副町長就任。マニフェストの推進、危機管理の体制など多方面で尽力。平成23年9月、副町長退任。陣地区在住。60歳